

「薬物・たばこ・酒」に関する意識等調査について

1 調査実施の経緯

平成 26 年度に「学校における今後の薬物乱用防止教室及び啓発の充実について」をテーマに横浜市学校保健審議会が開催されました。その答申の中で、本市の薬物乱用防止教育の現状や実態が明らかとなっていないため、調査を実施する旨、提案されました。これを受けて、次のとおり、市立学校の小中学生を対象とした「薬物・たばこ・酒」に関する意識調査を実施したものです。

2 調査概要

- (1) 時期：平成 27 年 12 月から平成 28 年 2 月まで
- (2) 対象：横浜市立小学校 5 年生児童、横浜市立中学校 2 年生生徒
- (3) 配布数：小学生 1,659 人 中学生 3,248 人 合計 4,907 人
- (4) 方法：質問数は全 23 問（小中共通）。無記名方式、学校から調査票を配布、家庭で児童生徒本人が記入し、郵送にて回収。
- (5) 実施主体：横浜市教育委員会事務局・横浜市健康福祉局
- (6) 協力：ファイザー株式会社（※）、（一般社団法人）横浜市薬剤師会
- (7) 回収率：全体 36.7%（1,801/4,907）
小学生 50.0%（830/1,659）、中学生 29.9%（971/3,248）、

※ ファイザー株式会社は、平成 25 年 10 月に横浜市と「禁煙・疾患（ニコチン依存症）の啓発活動に関する協定」を締結しています。

3 主なアンケート結果

(1) 危険ドラッグについて

ア 「許されるものではない」という回答割合が 90%以上であり、その有害性や危険性が認知されていることがわかりました。一方で、割合は少ないものの「個人の自由である」という回答もありました。

【質問 6】あなたは、「危険ドラッグ（脱法ハーブを含む）」や「覚せい剤などの薬物」を使うことについてどのように考えていますか。

	小学5年生 (n=830)	中学2年生 (n=971)	全体(小5+中2) (n=1,801)
どのような理由であれ絶対に使うべきではないし、許されることではない	95.4%	92.0%	93.6%
使っても構わない	0.1%	0.2%	0.2%
使うかどうかは個人の自由である	2.3%	5.7%	4.1%
その他(※)	1.6%	1.3%	1.4%
(無回答)	0.6%	0.8%	0.7%

※ 中学 2 年生その他意見（主なもの）

- ・ 使いたいと心から思う人は勝手に使えばいいと思う。
- ・ 他人に迷惑がかからないなら自由 等

イ 「危険ドラッグ」については、身近に接する場面があるかも知れないという回答が4人に1人、小学5年生の70%、中学2年生の84%が「入手できる」という認識があることがわかりました。

【質問7】あなたは身近に、「脱法ハーブ」や「危険ドラッグ」に接する場面はありとおもいますか。

	小学5年生 (n=830)	中学2年生 (n=971)	全体(小5+中2) (n=1,801)
あるかも知れないと思う	23.5%	25.0%	24.3%
ないと思う	42.0%	51.1%	46.9%
わからない	34.1%	23.5%	28.4%
(無回答)	0.4%	0.4%	0.4%

【質問8】「脱法ハーブ」や「危険ドラッグ」を手に入れようとした場合、それはすぐに手に入るとおもいますか。

	小学5年生 (n=830)		中学2年生 (n=971)		全体(小5+中2) (n=1,801)	
簡単に手に入ると思う	36.0%	70.6%	35.3%	84.9%	35.6%	78.3%
少し苦労するが、何とか手に入ると思う	34.6%		49.6%		42.7%	
ほとんど不可能だと思う	17.7%		10.4%		13.8%	
ぜったい不可能だと思う	10.2%		4.0%		6.9%	
(無回答)	1.4%		0.6%		1.0%	

(2) たばこについて

「吸ってみたいと思ったことがない」「健康に悪い」という回答割合が90%以上であり、その有害性が認知されていることがわかりました。

【質問9】20歳になる前からたばこを吸うこと(喫煙)は法律で禁止されていますが、あなたはこれまでたばこを吸ってみたいと思ったことがありますか。

	小学5年生 (n=830)	中学2年生 (n=971)	全体(小5+中2) (n=1,801)
吸ってみたいと思ったことがある	3.9%	6.6%	5.3%
吸ってみたいと思ったことはない	95.9%	92.7%	94.2%
(無回答)	0.2%	0.7%	0.5%

【質問 10】 たばこについてあなたはどのように思いますか。 そう思うもの全てに○をつけてください。

	小学5年生 (n=830)	中学2年生 (n=971)	全体(小5+中2) (n=1,801)
健康に悪い	96.9%	95.6%	96.2%
空気が汚れる	84.6%	82.9%	83.7%
煙がいや	89.4%	89.0%	89.2%
カッコいい・おしゃれに見える	1.7%	3.3%	2.6%
さわやかに見える	0.1%	0.7%	0.4%
おいしそうに見える	0.5%	1.9%	1.2%
特になんとも思わない	1.9%	2.7%	2.3%
わからない	2.3%	1.1%	1.7%
その他(※)	20.5%	19.9%	20.2%
(無回答)	0.0%	0.4%	0.2%

※ その他意見 (主なもの)

- ・ 人に迷惑がかかる
- ・ くさい、においがきつい

(3) 飲酒について

飲酒については、薬物やたばこに比べて若干抵抗感が低い傾向にあり、特に中学2年生においては、半数以上が成人になったら飲酒をしているイメージを持っていました。

【質問 20】 あなたが将来 20 歳以上になった時、酒を飲んでいる自分の姿を想像できますか。

	小学5年生 (n=830)	中学2年生 (n=971)	全体(小5+中2) (n=1,801)
できる	39.9%	51.2%	46.0%
できない	28.8%	22.3%	25.3%
わからない	31.1%	26.3%	28.5%
(無回答)	0.2%	0.1%	0.2%

(4) 喫煙・飲酒と薬物乱用の関係について

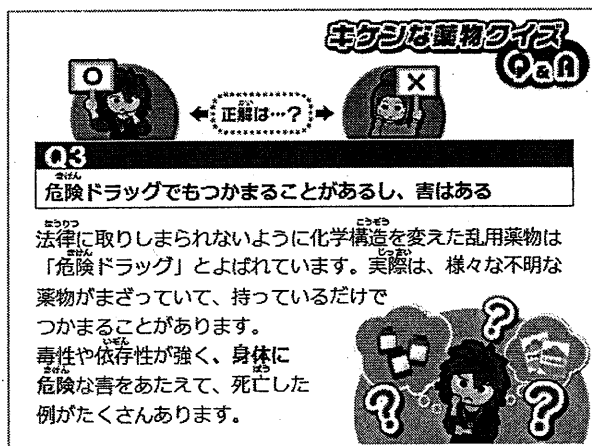
65%以上の子どもたちが未成年時の飲酒や喫煙が薬物につながると考えており、たばこや飲酒の危険性や社会ルールについて、早い時期から継続して啓発していくことが薬物乱用防止に向けて効果があることがわかります。

【質問 23】 20 歳になる前から酒を飲んだり、たばこを吸ったりすることがきっかけとなって薬物乱用につながることがあると思いますか。

	小学5年生 (n=830)	中学2年生 (n=971)	全体(小5+中2) (n=1,801)
あると思う	66.5%	65.5%	66.0%
ないと思う	11.2%	15.0%	13.3%
わからない	21.3%	18.8%	20.0%
(無回答)	1.0%	0.6%	0.8%

4 今後の取組について

今回のアンケート結果から、子どもたちが「危険ドラッグ」を比較的身近にあるものとしてとらえていることがわかりました。このことを踏まえ、学習指導要領に定められている既存の学習内容に加え、小学6年生から危険ドラッグについても正しい知識を定着させるための指導資料作成を進めます。また、早い時期から発達段階に応じて継続的な指導ができるよう、小学5年生及び中学1・2年生向けの教材の作成について検討を進めていきます。



(教材イメージ)